

諏訪東京理科大学公立化等検討協議会委員からの意見について（抜粋）

《中期計画全般に対する意見》

- ・この計画がしっかりと遂行されれば、良い大学ができていくと思う。
- ・明確な数値指標を立てているということは、評価できる。
- ・中期目標をもとに中期計画へ落としこんであり、体系として良くできていると思う。

《連携に関する意見》

- ・中期計画の達成に向けて、6市町村をはじめとした地元の行政、金融界、産業界など色々なところを巻き込んでいくことが重要である。また、報道機関にも頑張ってもらって大学をPRしていくことも必要である。
- ・県立大学も4月に開学するので、是非、県立大学とも積極的に連携をしていただきたい。
- ・県立大学だけでなく、長野県全体としても諏訪東京理科大学と包括連携協定を結んでいくのではないかと考えている。産業部門を中心にまだまだ連携できることはたくさんあると思うので、そういった連携を結ばせていただきたいと考えている。
- ・学生にこの地域への愛着を持ってもらうためには、大学ばかりに任せるのではなく、我々も頑張っていかなければならない。

《留学生に関する意見》

- ・留学生の受入れについて、現状では留学生の割合が0.3%であり、これを5%以上にするということがあるが、この地区では海外へ進出している企業が多いので、海外インターンシップを行っていくことも重要であるし、また、海外へ進出している企業ともう少しコンタクトを取って、例えば、その現地の技術職のスタッフでその国の大学を卒業しているような方へアプローチしながら企業とタイアップし、日本へ留学させるというような取組もしていければ、この数字も上がっていくと思う。

《情報発信に関する意見》

- ・学生の活動をはじめとした大学としてのアピールが色々あると思うが、情報を発信していくことがとても大事である。
- ・地域連携総合センター等から、大学の情報を発信することはできると思うが、地域からの情報も受け入れて、それを学生へ発信していくような仕組みも検討していただきたい。
- ・地域全体で大学に対して情報を伝えるという努力も必要だ。
- ・諏訪東京理科大学の持っているシーズをPRしていただければありがたいと思う。

《その他》

- ・大学は、学生が学ぶところだということが一番の基本だと思う。
- ・学生が楽しく学べる環境づくりをすれば、地域のボランティア活動などに積極的に参加するようになると思うし、また、そのことによって地域に定着していくと思う。
- ・諏訪東京理科大学という大学がこの地域にあり、教育という分野で大きな核として存在していることは、大きな価値である。
- ・これから日本の子どもの数が減っていき、既に大学間の競争の時代に入っている中で、魅力的でこの大学に行きたいとなるようにしていくことが私たちの役割や使命である。
- ・教員一人当たりの学生数は、私立大学の場合が30人の学生に1人の教員、国立大学の場合が10人の学生に1人の教員という割合になっており、こういったことから私立大学というのは教員が少なく、負担が多く大変かということがわかる。そういう意味で、諏訪東京理科大学の教員の方々も非常にオーバーワークしながら教育と研究に取り組んできていると思うので、今後、仮に教員を増やすといったことになれば、当然経費もかかってくると思うが、その部分についてはご理解いただきたいと思う。